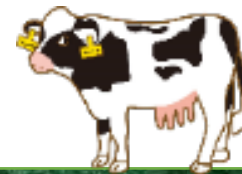
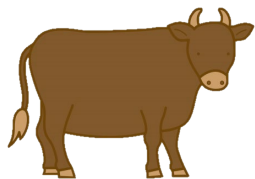


畜産への新規就農及び経営離脱に関する調査 (令和4年)

確報版

農林水産省畜産局企画課

令和6年8月



新規就農に関する調査の概要

1. 調査対象期間

令和4年1月1日～令和4年12月31日

2. 調査対象者

調査対象期間中に新たに就農した以下の者

- ①Uターン就農：畜産経営者の世帯員（子、兄弟姉妹、配偶者）であり、他産業従事後に畜産経営に参加又は経営を継承した者
- ②新規参入：畜舎、農地等を調達し、新たに畜産経営を開始した者（第三者による事業継承や畜産経営者の世帯員が新たに別の畜産経営を開始した場合を含む）

3. 調査対象の畜産経営

- ・酪農経営
- ・肉用牛経営
- ・養豚経営

注）研究機関等の非営利的な生産者及び育成専業は対象外

4. 調査方法

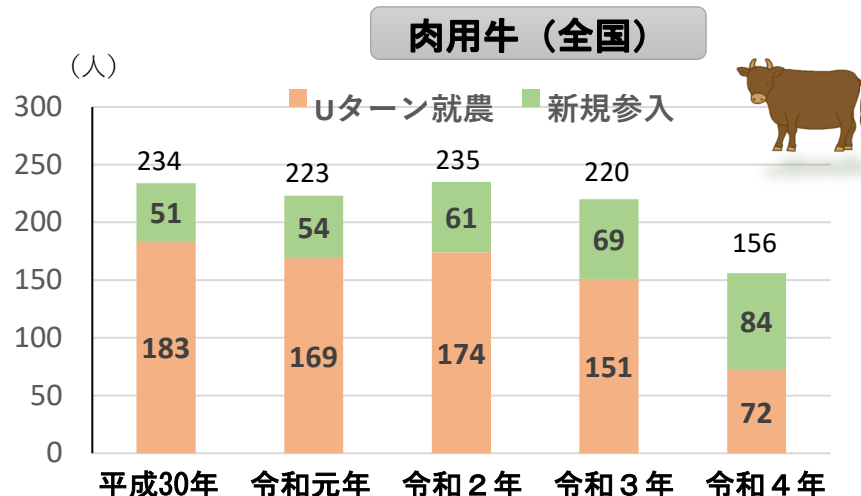
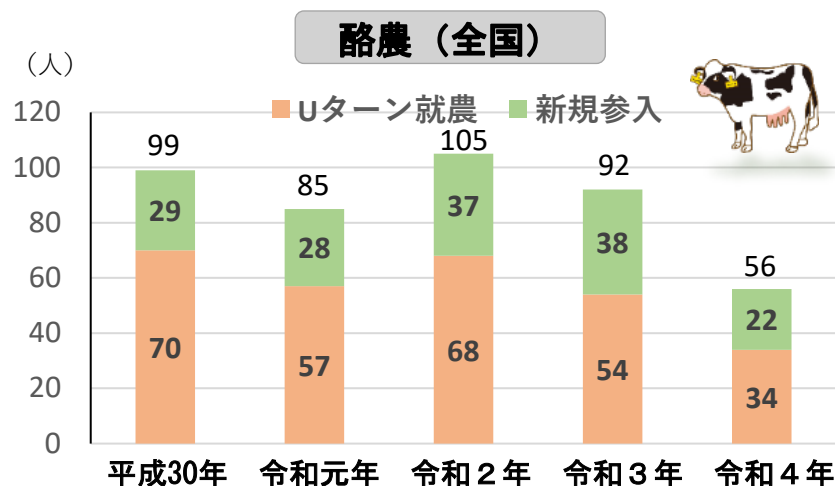
各都道府県及び地域の関係機関（市町村、家保、農協等）の協力を得て実施

5. 調査項目

経営内容、年齢、就農地、出身地、畜舎の取得方法

(1) 酪農及び肉用牛経営への新規就農者数

- 令和4年の酪農経営の新規就農者(Uターン就農、新規参入の計)は56人で、前年から36人減少。
- 令和4年の肉用牛経営の新規就農者(Uターン就農、新規参入の計)は156人で前年から64人減少。Uターン就農は79人減少した一方、新規参入は15人増加。



酪農 (地域別)

		平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
北海道	計	64	54	72	53	35
	新規参入	21	24	28	26	17
	Uターン就農	43	30	44	27	18
都府県	計	35	31	33	41	21
	新規参入	8	4	9	14	5
	Uターン就農	27	27	24	27	16

肉用牛 (主な地域)

		平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
東北	計	29	42	18	16	17
	新規参入	6	9	4	3	10
	Uターン就農	23	33	14	13	7
九州・沖縄	計	144	124	163	156	93
	新規参入	29	25	36	43	45
	Uターン就農	115	99	127	113	48

(2) 酪農及び肉用牛経営への新規就農者の就農年齢

- 酪農経営では、Uターン就農は、20代が多く(約5割)、新規参入は30代が多い(約5割)。
- 肉用牛経営では、Uターン就農、新規参入ともに20代～40代が多いが(約8割)、50代以上も認められる。



凡例：

20代

30代

40代

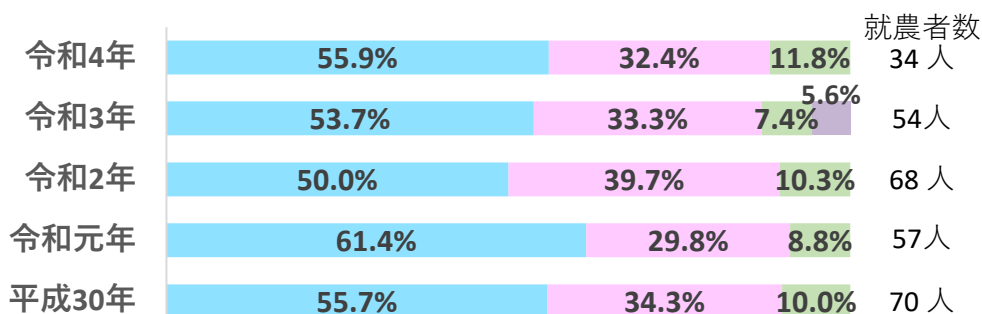
50代

60代

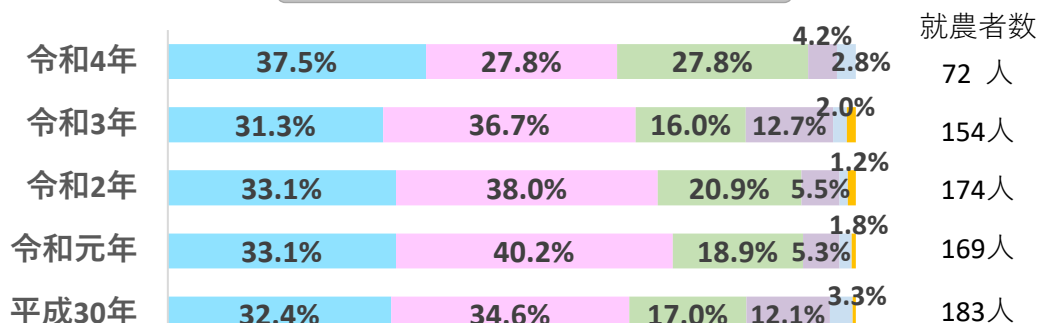
70代



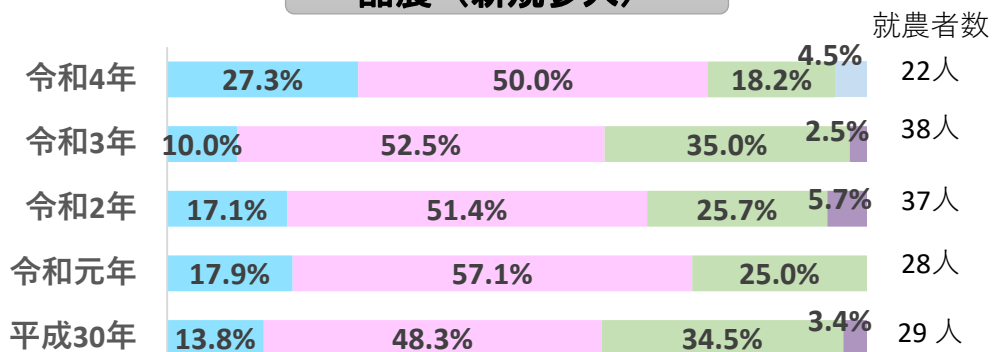
酪農 (Uターン就農)



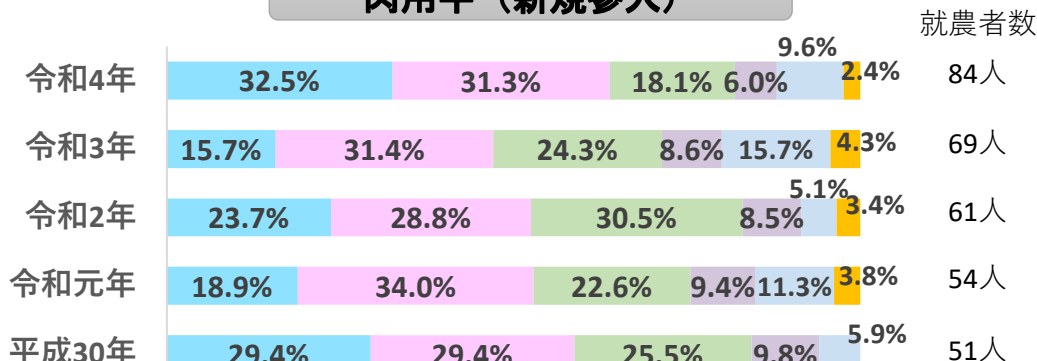
肉用牛 (Uターン就農)



酪農 (新規参入)



肉用牛 (新規参入)

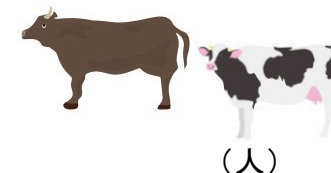


注：年齢の不明な者は除いて集計

(3) 酪農及び肉用牛経営への新規参入者の就農地及び出身地

- 北海道で就農した新規参入者の出身地は、北海道内のほか全国各地から認められる。
- 都府県で就農した新規参入者の出身地は、就農地またはその近隣が多い。

新規参入者の出身地
過去5年間(平成30年から令和4年)



		出身地										計
		北海道	東北	関東	北陸	東海	近畿	中四国	九州	沖縄	海外	
就農地	北海道	78	2	33		6	8	1	5		3	136
	東北	1	20	2			1		1			25
	関東			15		1						16
	北陸				3		1					4
	東海			2		11	1					14
	近畿						7					7
	中四国			5			3	39	3			50
	九州			8		3	8	1	82	2		104
	沖縄		1	1	1		1		1	60		65

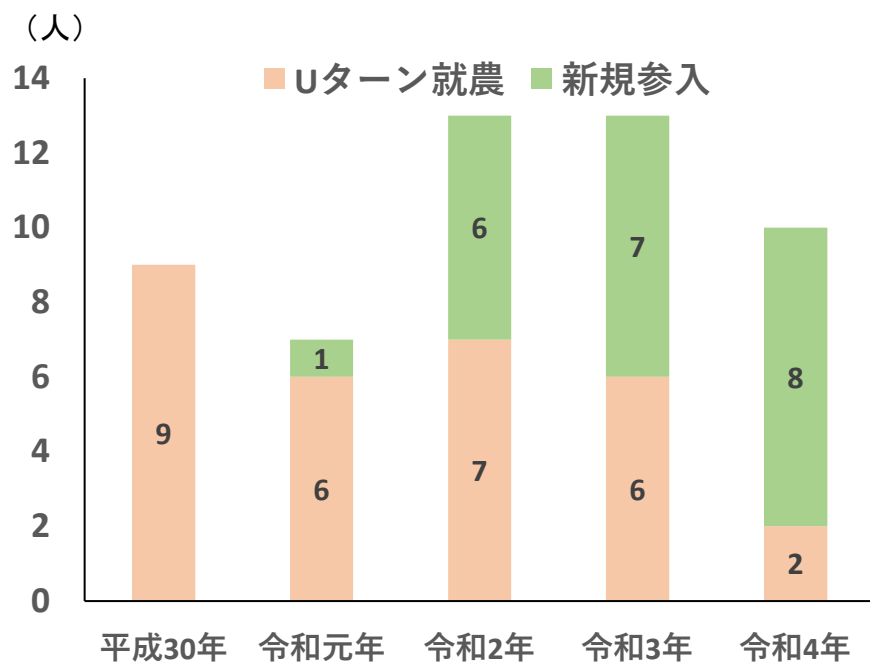
注：出身地の不明な者は除いて集計

(4) 養豚経営への新規就農者数及び就農年齢

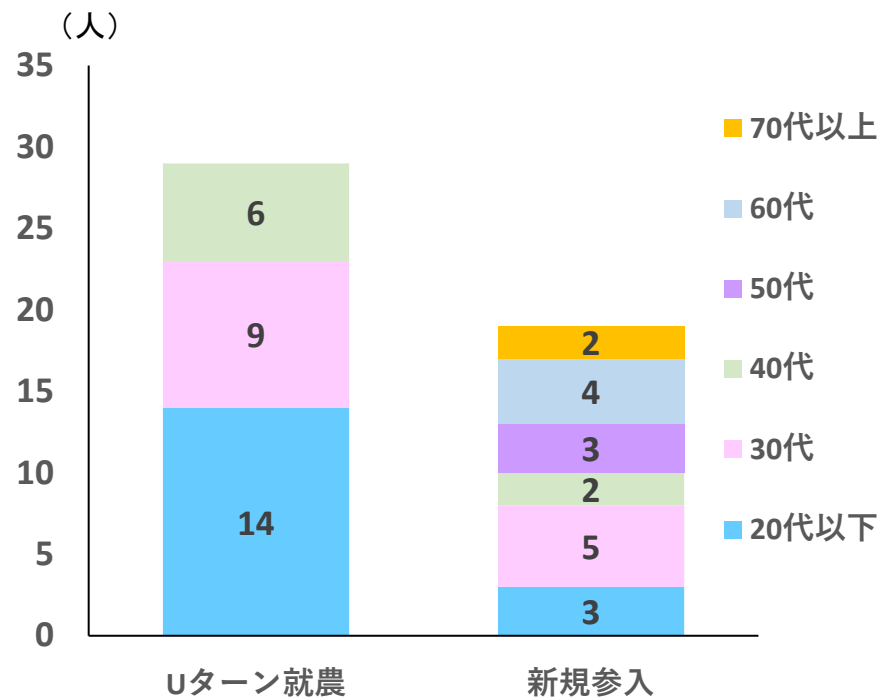
○令和4年の新規就農者は、10人(前年3人減)。近年、Uターン就農が減り、新規参入が増える傾向。
○Uターン就農は、20代～40代である一方、新規参入は、20代～70代まで幅広い年齢層で見られる。



新規就農者数



新規就農者の年齢構成 過去5年間(平成30年から令和4年)



注：年齢の不明な者は除いて集計

経営離脱に関する調査の概要

1. 調査対象期間

令和4年1月1日～令和4年12月31日

2. 調査対象者

畜産経営から離脱した経営体

注1 他畜種への転換を含む

注2 協業法人成立に伴う廃業を含む（戸数が減少するため）

注3 単純な法人成りは含まない（戸数や経営内容の変化がないため）

3. 調査対象の畜産経営

- ・酪農経営
- ・肉用牛繁殖経営
- ・肉用牛肥育経営
- ・養豚経営

注1 複合経営または一貫経営の場合は最も頭数の多い畜種の経営を選択

注2 研究機関等の非営業的な生産者及び育成専業は対象外

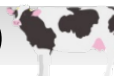
4. 調査方法

各都道府県及び地域の関係機関（市町村、家保、農協等）の協力を得て実施

5. 調査項目

飼養規模、年齢、離脱理由（最も適当なものを1つ選択）、離脱後の施設の利用状況

（１）酪農経営からの離脱要因①（全体）



- 令和4年の離脱戸数は794戸と前年の約1.7倍となり、離脱割合は6.0%と前年に比べ2.5%増加。
- 離脱要因は、過去3年と同様、「高齢化」及び「後継者不在」が合わせて約4割と最も多くなっている。

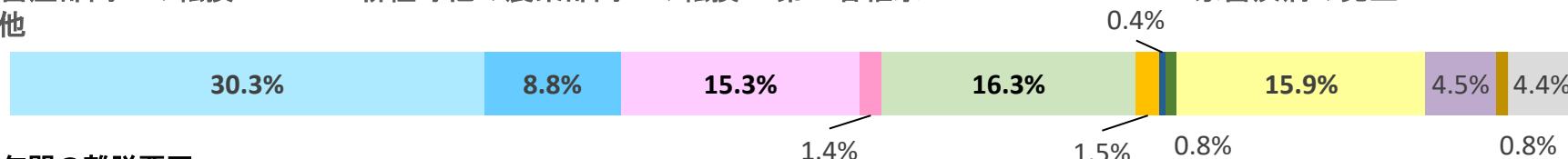
1. 過去5年間の離脱農家戸数の推移

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
離脱戸数	563	536	504	472	794
全農家戸数※	15,100	14,400	14,000	13,500	13,300
離脱割合（%）	3.7	3.7	3.6	3.5	6.0

※農林水産省「畜産統計」（各年2月1日現在）

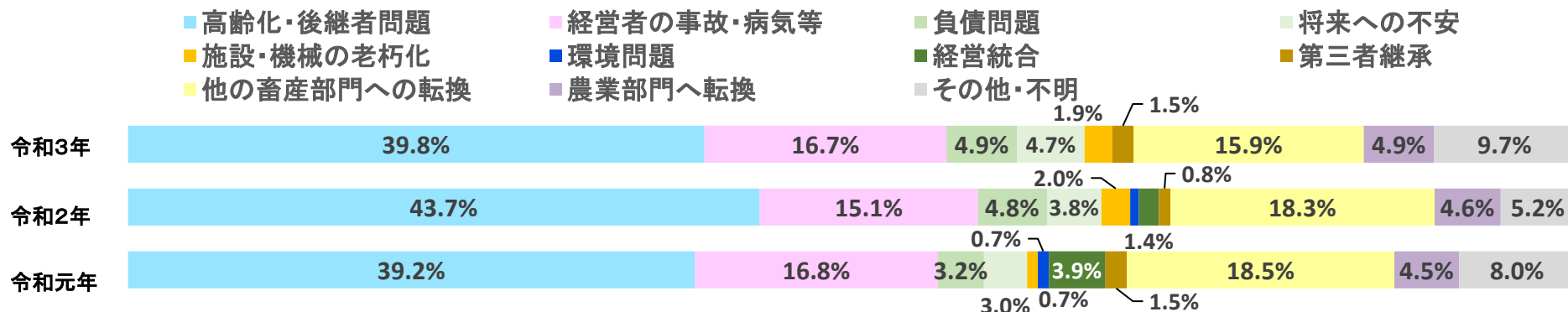
2. 酪農経営からの離脱要因（令和4年）

- 高齢化
- 経営不振・悪化
- 他の畜産部門への転換
- その他
- 後継者不在
- 施設・機械の損壊・故障
- 耕種等他の農業部門への転換
- 従事者の事故・病気・死亡
- 環境問題
- 第三者継承
- 労働力不足
- 他の経営体と統合等
- 家畜疾病の発生



参考）過去3年間の離脱要因

注）要因を複数回答した者を含む



(1) 酪農経営からの離脱要因② (年齢、規模別)



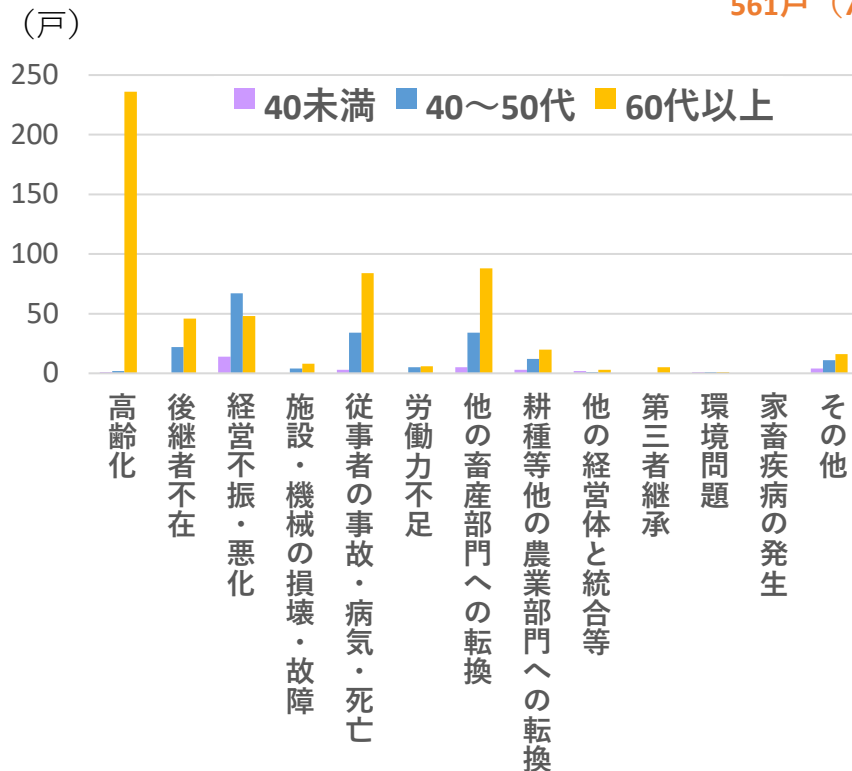
- 年齢別では、離脱戸数の71%(561戸)が60代以上であり、最大の離脱要因は「高齢化」(42%、236戸)。
- 経産牛飼養規模別では、20頭から50頭未満が最も離脱戸数が多く、全離脱戸数の47%(372戸)。
- 酪農から他の畜産部門への転換先で最も多いのは、「肉用牛繁殖」(60%、76戸)。

3. 年齢別離脱戸数と離脱要因

	40代未満	40代	50代	60代	70代以上
離脱戸数 (前年)	33 (11)	76 (43)	117 (67)	281 (173)	280 (165)

注：年齢の不明な者は除いて集計

561戸 (71%)

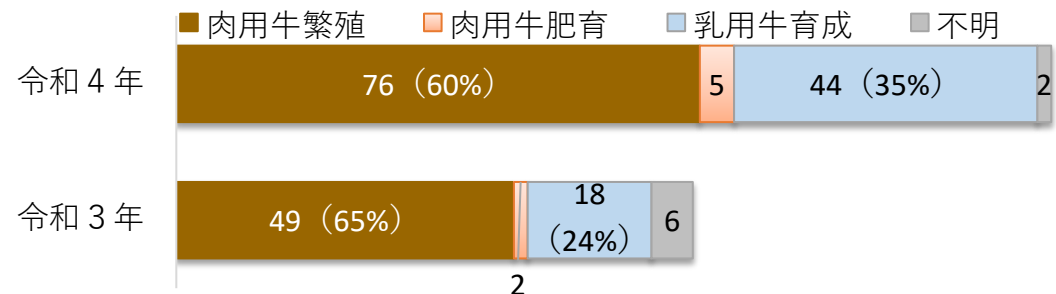


4. 経産牛飼養規模別離脱戸数

	20頭未満	20～50頭未満	50頭以上	計
離脱戸数 (前年)	320 (214)	372 (208)	100 (45)	792 (467)
離脱戸数の 割合	40%	47%	13%	100%

注：飼養規模が不明の農家は除いて集計

5. 酪農から他の畜産部門への転換先



注：転換先が不明の農家は除いて集計

(2) 肉用牛繁殖経営からの離脱要因① (全体)



- 令和4年の離脱戸数は、1,540戸で前年より173戸増加し、離脱割合は4.3%と前年に比べ0.6%増加。
- 離脱要因は、過去3年と同様、「高齢化」及び「後継者不在」を合わせて約7割と最も多い。

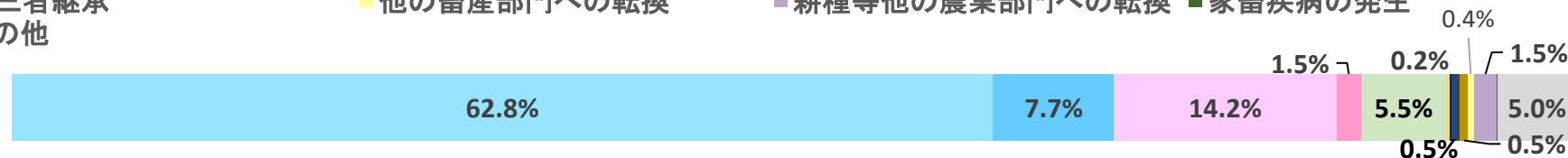
1. 過去5年間の離脱農家戸数の推移

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
離脱戸数	1,394	1,491	1,220	1,367	1,540
全農家戸数※	41,800	40,200	38,600	36,900	35,500
離脱割合(%)	3.3	3.7	3.2	3.7	4.3

※農林水産省「畜産統計」(各年2月1日現在)

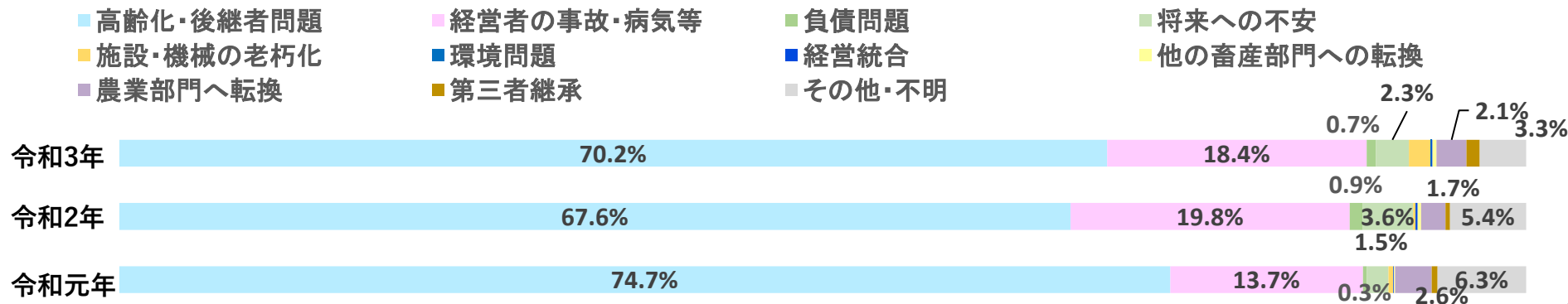
2. 令和4年度の肉用繁殖経営からの離脱要因

- 高齢化
- 経営不振・悪化
- 第三者継承
- その他
- 後継者不在
- 施設・機械の損壊・故障
- 他の畜産部門への転換
- 従事者の事故・病気・死亡
- 環境問題
- 耕種等他の農業部門への転換
- 労働力不足
- 他の経営体と統合等
- 家畜疾病の発生



参考) 過去3年間の離脱要因

注) 要因を複数回答した者を含む



(2) 肉用牛繁殖経営からの離脱要因② (年齢、規模別)



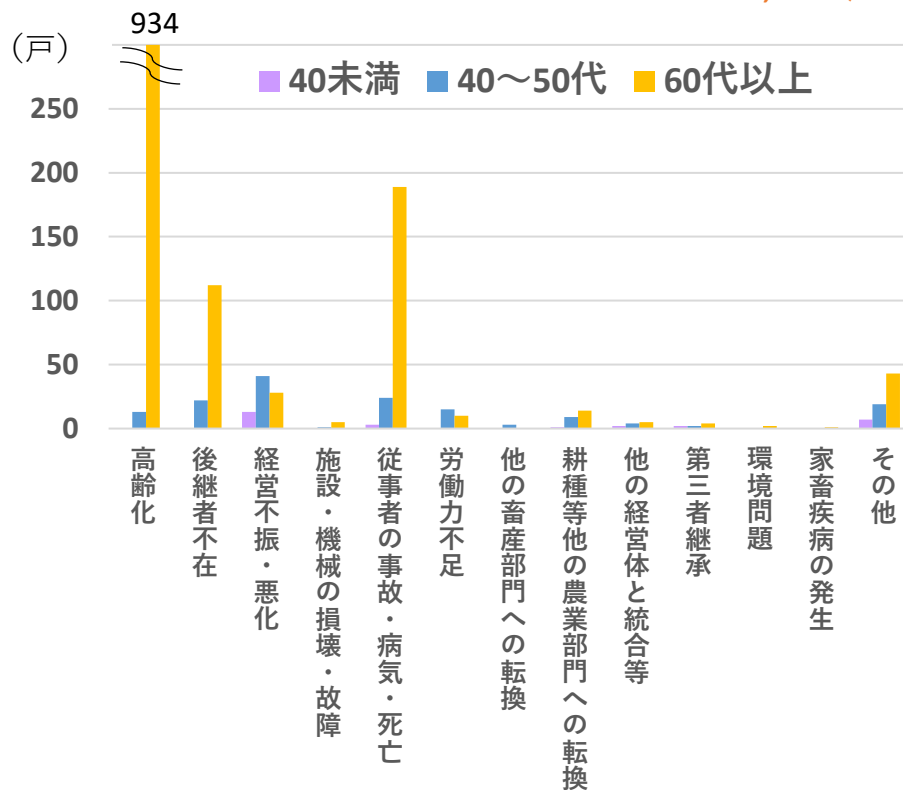
- 年齢別では、全離脱戸数の約9割(1,338戸)が60代以上であり、最大の離脱理由は「高齢化」(69%)。
- 繁殖雌牛頭数規模別では、繁殖雌牛5頭未満が最も離脱戸数が多く(1,192戸)、全離脱戸数の約8割。

3. 年齢別離脱戸数と離脱要因

	40代未満	40代	50代	60代	70代以上
離脱戸数 (前年)	30 (13)	48 (35)	107 (104)	241 (227)	1,097 (949)

注：年齢の不明な者は除いて集計

1,338 (88%)



4. 繁殖雌牛頭数規模別離脱戸数

	5頭未満	5～20頭未満	20頭以上	計
離脱戸数 (前年)	1,192 (1,084)	281 (230)	33 (36)	1,506 (1,350)
離脱戸数の 割合	79%	19%	2%	100%

注：飼養規模が不明の農家は除いて集計

(3) 肉用牛肥育経営からの離脱要因① (全体)



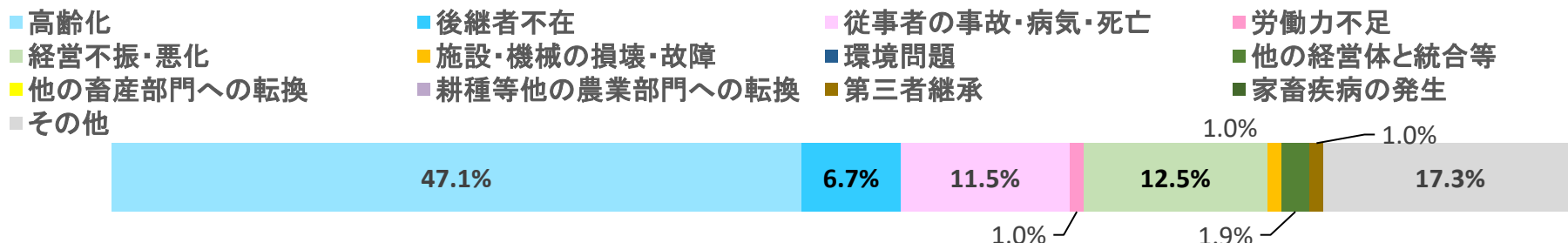
- 令和4年の離脱戸数は104戸で前年より16戸減少し、離脱割合は、1.1%と横ばい。
- 離脱要因は、過去3年と同様、「高齢化」及び「後継者不在」が合わせて約5割と最も多い。

1. 過去5年間の離脱農家戸数の推移

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
離脱戸数	147	129	134	120	104
全農家戸数※	10,800	10,200	9,980	9,740	9,480
離脱割合(%)	1.4	1.3	1.3	1.2	1.1

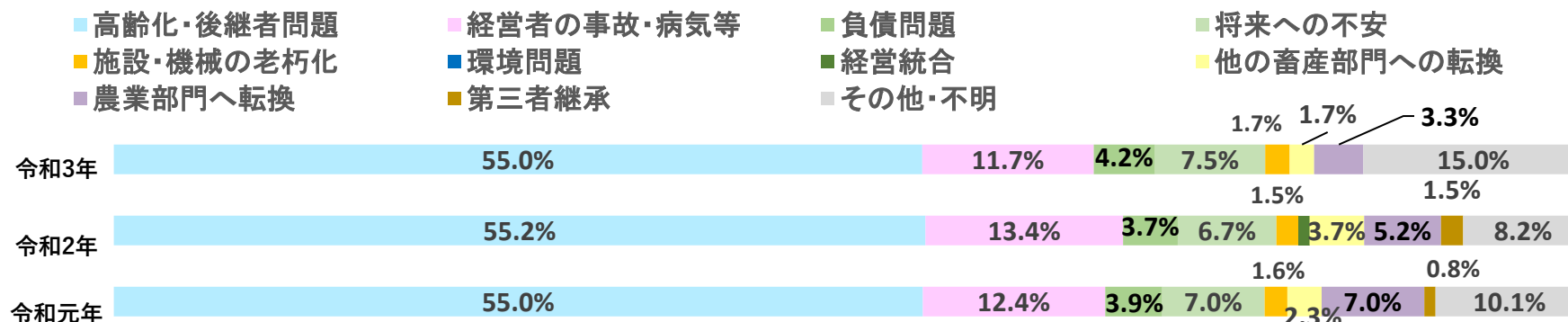
※農林水産省「畜産統計」(各年2月1日現在)

2. 肉用肥育経営からの離脱要因(令和4年)



参考) 過去3年間の離脱要因

注) 要因を複数回答した者を含む



(3) 肉用牛肥育経営からの離脱要因②（年齢、規模別）

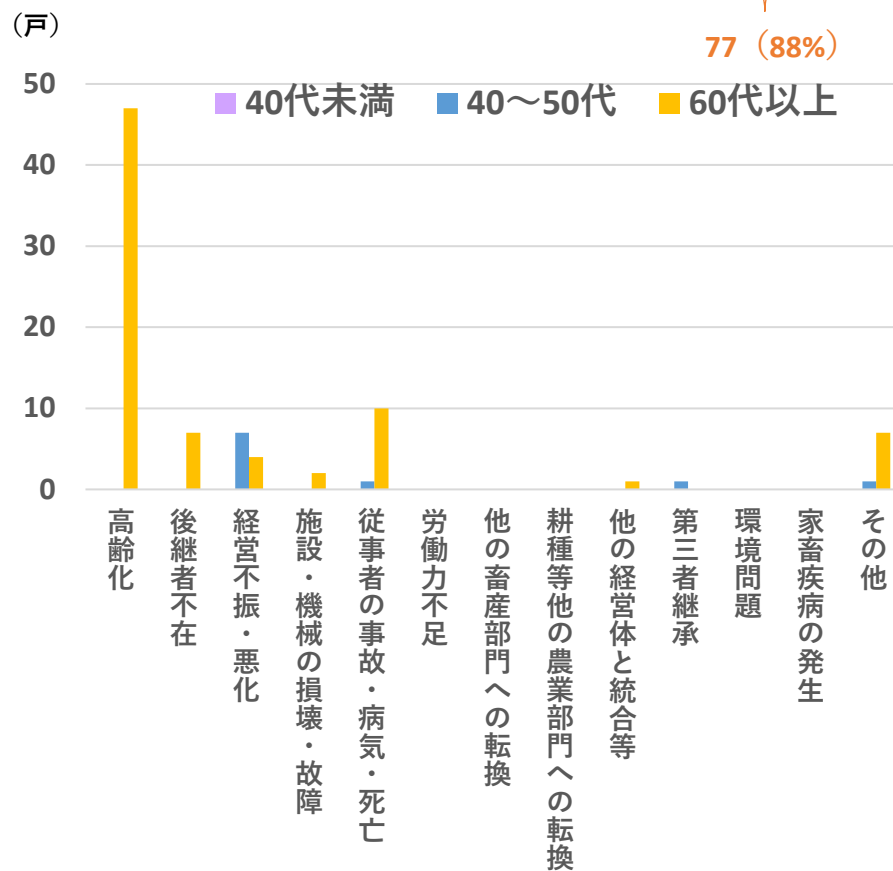


- 年齢別では、全離脱戸数の約9割が60代以上であり(77戸)、最大の離脱要因は「高齢化」(約6割)。
- 肥育頭数規模別では、10頭未満が最も多く(44戸)、全離脱戸数の約5割。

3. 年齢別離脱戸数と離脱要因

	40代未満	40代	50代	60代	70代以上
離脱戸数 (前年)	1 (0)	2 (3)	8 (14)	21 (20)	56 (63)

注：年齢の不明な者は除いて集計

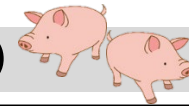


4. 肥育牛頭数規模別離脱戸数

	10頭未満	10～50頭未満	50頭以上	計
離脱戸数 (前年)	44 (51)	31 (42)	16 (20)	91 (113)
離脱戸数の 割合	48%	34%	18%	100%

注：飼養規模が不明の農家は除いて集計

(4) 養豚経営からの離脱要因① (全体)



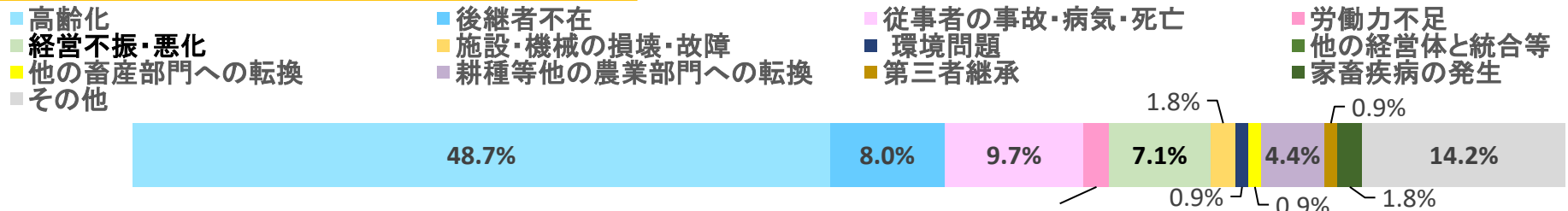
- 令和4年の離脱戸数は109戸で前年より2戸減少し、離脱割合は3.0%と前年に比べ0.1%増加。
- 離脱要因は、過去3年と同様、「高齢化」及び「後継者不在」が合わせて約6割と最も多い。

1. 過去5年間の離脱農家戸数の推移

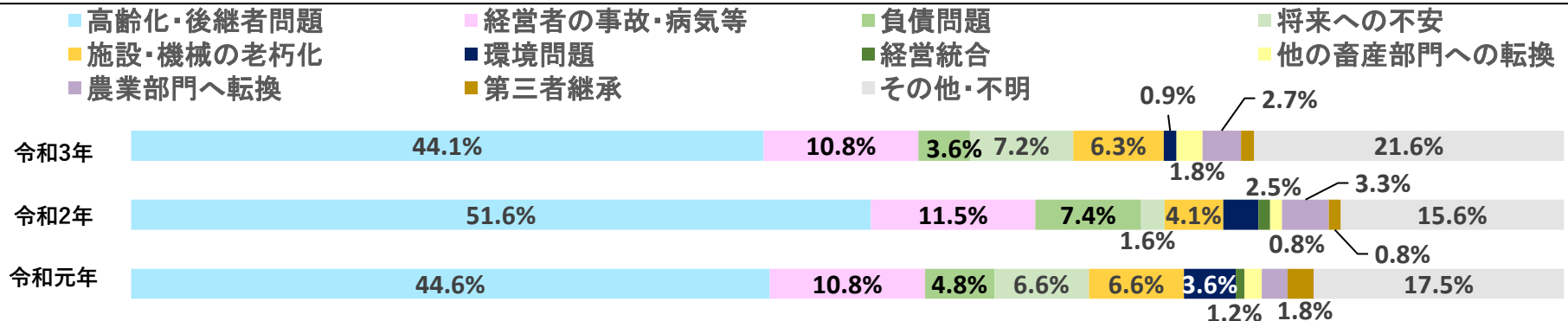
	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
離脱戸数	140	166	122	111	109
全農家戸数※	4,470	4,320	－	3,850	3,590
離脱割合(%)	3.1	3.8	－	2.9	3.0

※農林水産省「畜産統計」(各年2月1日現在)
令和2年はデータ無し

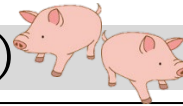
2. 養豚経営からの離脱要因(令和4年)



参考) 過去3年間の離脱要因



(4) 養豚経営からの離脱要因② (年齢、規模別)

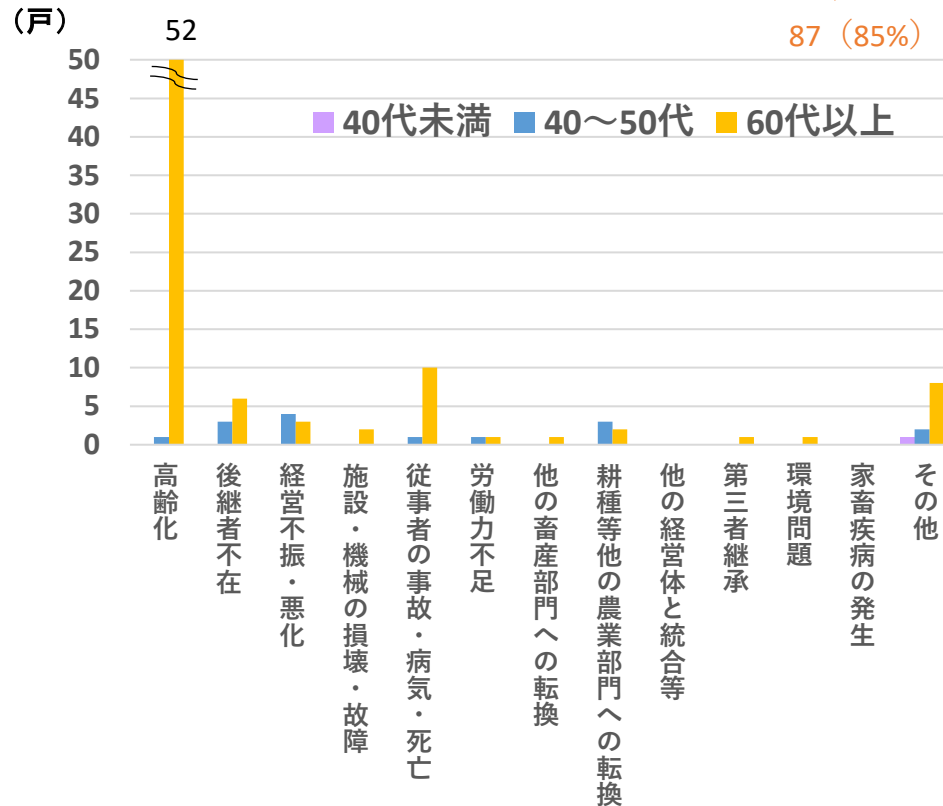


- 年齢別では、全離脱戸数の約9割が60代以上(87戸)であり、主な離脱要因は「高齢化」(約6割)。
- 肥育豚飼養規模別では、300頭未満が最も離脱戸数が多く(54戸)、全離脱戸数の約5割。

4. 年齢別離脱戸数と離脱要因

	40代未満	40代	50代	60代	70代以上
離脱戸数 (前年)	1 (1)	6 (12)	8 (7)	32 (30)	55 (41)

注：年齢の不明な者は除いて集計



3. 肥育豚飼養頭数規模別離脱戸数

	300頭未満	300～1000頭未満	1000頭以上	計
離脱戸数 (前年)	54 (70)	39 (29)	16 (8)	109 (107)
離脱戸数の 割合	50%	36%	14%	100%

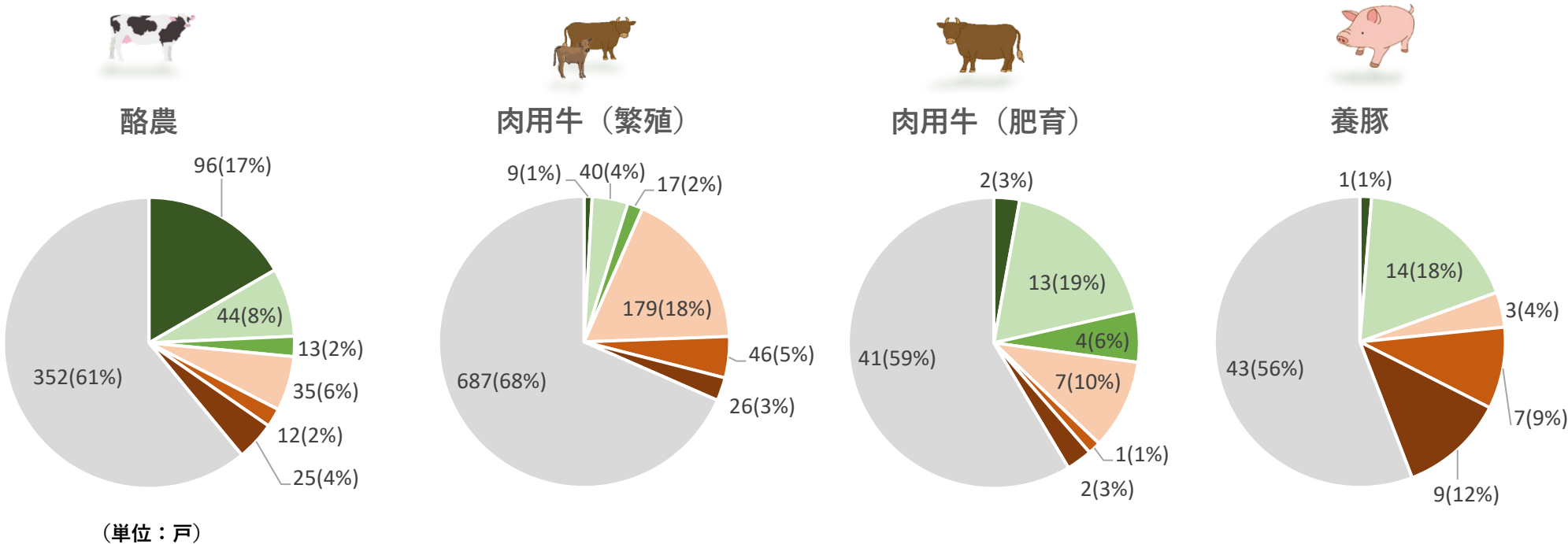
注：飼養規模が不明の農家は除いて集計

離脱後の畜舎利用状況

○酪農経営離脱後の畜舎は、約2割が自農場で畜舎として利用され、約1割が既存の畜産農家や新規就農者によって畜舎として利用。

○肉用牛（肥育）経営及び養豚経営離脱後の畜舎は、約2～3割が既存の畜産農家や新規就農者により畜舎として利用。

○肉用牛（繁殖）経営離脱後の畜舎は、約1割が既存の畜産農家や新規就農者により畜舎として利用。



- 自農場で畜舎として利用

■ 既存の畜産農家に貸与・売却

■ 新規就農者に貸与・売却

■ 農業で利用（農機具倉庫等）

■ その他農業以外で利用

■ 取り壊し

■ 未定・放置

注：畜舎利用状況が不明な者は除外して集計